



公益財団法人愛知県文化振興事業団

2025年2月18日(火)
愛知県芸術劇場
(公益財団法人愛知県文化振興事業団)
広報グループ
☎ 052-955-5506

<Press Release>

報道各位

ヨーロッパ最大級の芸術祭「ウィーン芸術週間」から
委嘱された音楽劇

ドイツ、オランダ等での公演を経て、愛知で上演

チェルフィッチュ×藤倉大 with アンサンブル・ノマド
『リビングルームのメタモルフォーシス』



デザイン: REFLECTA, Inc.

お問合せ

愛知県芸術劇場(公益財団法人愛知県文化振興事業団)

広報グループ(武石) 企画制作グループ(仲村)

〒461-8525 名古屋市東区東桜 1-13-2 Tel 052-955-5506 Fax 052-971-5541

E-mail: pr@aaf.or.jp

WEB: <https://www-stage.aac.pref.aichi.jp/event/detail/001190.html>



作・演出：岡田 利規（チェルフィッチュ）



音楽：藤倉 大

チェルフィッチュ×藤倉大 with アンサンブル・ノマドによる『リビングルームのメタモルフォーシス』を2025年3月1日（土）にアマノ芸術創造センター名古屋（名古屋市芸術創造センター）で開催します。

本作品は、毎年5～6月にかけてウィーン（オーストリア）で開催される世界の演劇・ダンス・オペラなどの芸術作品が集まるヨーロッパ最大級の芸術祭「ウィーン芸術週間」から委嘱された音楽劇です。2023年はチェルフィッチュが選定され、21年のクリエーションワークショップやワークインプログレス公演を通して、愛知県芸術劇場も共同製作に携わりながら、創作を行ってきました。その後、23年5月に世界初演を迎えた後、ヘレンハウゼン芸術祭（ドイツ）、オランダ・フェスティバル（オランダ）、東京芸術劇場（東京）、神戸文化ホール（兵庫）と、国内外5か所で上演され、多くの反響を得ています。

本公演の作・演出は、演劇界の芥川賞と呼ばれる「岸田國土戯曲賞」や、新潮文芸振興会が主催する文学賞「三島由紀夫賞」の受賞経歴を持ち、近年は「ノン・ネイティブ日本語話者との演劇プロジェクト」で、日本語を母語としない俳優を対象としたワークショップなどにも取り組む演劇カンパニー・チェルフィッチュを主宰する演劇作家・小説家の岡田利規。当劇場と製作した『瀕死の白鳥 その死の真相』は24年5月にニューヨーク公演、『ジゼルのあらすじ』は同年12月に神奈川公演と、国内外で上演され、再演のオファーが続いています。

音楽は、作曲家をはじめ、オペラの国際評価も高く、映画『蜜蜂と遠雷』の劇中オリジナル楽曲やNHK Eテレ「にっぽんの芸能」のテーマ曲でも知られる藤倉大。この地域では2014年度から3年間にわたり名古屋フィルハーモニー交響楽団の初代コンポーザー・イン・レジデンスを務めました。

この二人に加え、チェルフィッチュの作品にこれまで参加してきた青柳いづみをはじめとする俳優6名と、「第3回ウィーン・フィル&サントリー音楽復興祈念賞」を受賞し、時代やジャンルを超えた幅広いレパートリーで独自の世界を表現するアンサンブル「アンサンブル・ノマド」7名が演劇×音楽の物語を描きます。



『リビングルームのメタモルフォーシス』 東京公演より（2024年9月）(C)前澤秀登

ストーリー

賃貸契約を一方的に破棄されたある家族の物語。住む家を追い出されそうになったところで、人の手には負えない強大な力により問題は消えてしまう。その後、人の世界を圧倒する存在が登場し、まったく新しい世界が現れ始める…。

“見どころ解説”レクチャー

『リビングルームのメタモルフォーシス』をみるまえに知っておくといいかもしれないいくつかのこと（東京芸術祭ウェブサイトより）

<https://tokyo-festival.jp/2024/special/chelfitsch-dai-fujikura-lecture/>

概要

公演日時

2025年3月1日（土）14:00 開演
※ 開場は開演 30 分前 ※ 公演時間：約 80 分（休憩なし）

会場

アマノ芸術創造センター名古屋（名古屋市芸術創造センター）
※会場は愛知県芸術劇場ではありません

住所：〒461-0004 名古屋市東区葵一丁目3番27号

Tel：052-931-1811

[アクセスマップ](#)

・地下鉄東山線「新栄町」下車1番出口を北へ徒歩3分

・地下鉄桜通線「高岳」下車3番出口より東へ徒歩5分

助成

 文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業
（地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業）） 独立行政法人日本芸術文化振興会

公益財団法人朝日新聞文化財団

共催

公益財団法人名古屋市文化振興事業団
（アマノ芸術創造センター名古屋）

主催・お問合せ

愛知県芸術劇場 TEL: 052-211-7552（10:00～18:00）
FAX: 052-971-5541 Email: contact@aaf.or.jp

スタッフ・キャスト

出演者・スタッフ

作・演出：岡田利規
作曲：藤倉大
出演：青柳いづみ、朝倉千恵子、石倉来輝、川崎麻里子、矢澤誠
渡邊まな実
演奏：アンサンブル・ノマド
音響：白石安紀
音響スーパーバイザー：石丸耕一（東京芸術劇場）
照明：高田政義（RYU）
衣裳：藤谷香子（FAIFAI）
美術：dot architects
ドラマトゥルク：横堀応彦
技術監督：守山真利恵
舞台監督：湯山千景
テクニカルアドバイザー：川上大二郎（スケラボ）
英語字幕翻訳：アヤ・オガワ
宣伝美術：REFLECTA, Inc.（岡崎真理子+田岡美紗子+邵琪）
プロデューサー：水野恵美（precog）、黄木多美子（precog）
プロダクションマネージャー：武田侑子
アシスタントプロダクションマネージャー：遠藤七海
委嘱：Wiener Festwochen
製作：Wiener Festwochen、一般社団法人チエルフィッチュ
共同製作：KunstFestSpiele Herrenhausen、Holland Festival、愛知県
芸術劇場、独立行政法人国際交流基金
企画制作：株式会社 precog
[愛知県芸術劇場]
芸術監督：唐津絵理、舞台：峯健、築山竜次、制作：仲村悠希、大島直
子、高木悠子

チケット情報

チケット料金

全席指定
一般 4,800 円 / U25 2,500 円
※【劇場と子ども 7 万人プロジェクト対象公演】小・中・高校生を
公演にご招待します。
※ U25 は公演日に 25 歳以下対象（要証明書）。
※ 未就学児入場不可。託児サービスあり（有料・要事前予約）。
[鑑賞サポート](#)をご覧ください。
※ 車椅子席、団体割引（10 名以上）は [劇場事務局](#)（問合せ先）
にて取扱い。

※最前列は 5 列目になります。
※開演後はしばらくの間入場できない場合や、自席にご案内でき

ない場合があります。

チケット発売 2024 年 12 月 13 日 (金)

愛知県芸術劇場オンラインチケットサービス

愛知県芸術劇場メンバーズへの登録が必要です。詳細は[こちら](#)

※電子チケット「チケットれす Q」対応（「チケットれす Q」について詳細は[こちら](#)をご参照ください。）

愛知芸術文化センタープレイガイド（地下 2 階）

TEL 052-972-0430

平日 10:00-19:00 土日祝休 10:00-18:00（月曜定休／祝休日の場合、翌平日・年末年始休み）

チケットぴあ [P コード:530-581]

<https://t.pia.jp/>

アマノ芸術創造センター名古屋（名古屋市芸術創造センター）

TEL 052-931-1811

2024 年 12 月 28 日までは休館日（日曜日）を除く 9 時～17 時、2025 年 1 月 4 日からは休館日（原則月曜日）を除く 9 時～20 時

名古屋市文化振興事業団チケットガイド

TEL 052-249-9387

平日 9 時～17 時／チケット郵送可

名古屋市文化振興事業団が管理運営する文化施設窓口

土日祝日も営業 ※工事休館等がありますので、ウェブサイトでご確認ください。

※購入方法によりチケット代金のほかに手数料が必要になる場合があります。

チケット取扱

鑑賞サポート

託児サービス
(要予約)

対象：満 1 歳以上の未就学児

料金：1 名につき 1,000 円 (税込)

申込締切：2025 年 2 月 21 日 (金) まで

託児サービスのお申込み：

オフィス・パレット株式会社

TEL 0120-353-528 (携帯からは 052-562-5005)

月～金 9:00～17:00、土 9:00～12:00 (日・祝日は休業)

鑑賞サポート

・字幕：舞台上部に日本語・英語の字幕が表示されます。

・視覚に障がいのあるお客さまへのサポート

事前にパンフレットのデータを E メールでお送りします。

ご希望の方は愛知県芸術劇場お問合せ先にご連絡ください。

小・中・高校生招待

【劇場と子ども7万人プロジェクト（小・中・高校生招待）対象公演】

申込受付：12月13日（金）10:00～

※高校生以上推奨

※枚数限定・先着順

※同行のお客さまも一緒にご購入いただけます（座席選択不可／1申込につき招待とあわせて4枚まで）。

[劇場と子ども7万人プロジェクト 小・中・高校生招待申込](#)

プロフィール

チェルフイツチュ／chelfitsch

岡田利規が全作品の脚本と演出を務める演劇カンパニーとして1997年に設立。2007年クンステン・フェスティバル・デザールにて『三月の5日間』を上演、初めての国外進出を果たす。以降、世界90都市以上で作品を上演。フェスティバル・ドートンヌ・パリ（フランス）、ウィーン芸術週間（オーストリア）など世界有数のフェスティバル・劇場の委嘱および国際共同製作による創作も多数。近年は、スクリーンに投影された映像が人の感覚に引き起こす作用によって展示空間を上演空間へと変容させる試み〈映像演劇〉を舞台映像作家・山田晋平氏とともに始動。2021年からは、「ノン・ネイティブ日本語話者との演劇プロジェクト」にも取り組む。

岡田利規／Toshiki Okada

その手法における言葉と身体の特徴的な関係が注目され、2005年『三月の5日間』で第49回岸田國士戯曲賞を受賞。2016年からはドイツの公立劇場レパートリー作品の作・演出も継続的に務める。近年は様々な分野のアーティストとの協働を積極的に行い、歌劇『夕鶴』（2021年）でオペラの演出を、木ノ下歌舞伎『桜姫東文章』（2023年）で歌舞伎演目の脚本・演出を手がけるなど、活動の幅をさらに広げている。小説家としては、2007年に『わたしたちに許された特別な時間の終わり』（新潮社）で第2回大江健三郎賞受賞。2022年に『ブロッコリーレボリューション』（新潮社）で第35回三島由紀夫賞および第64回熊日文学賞を受賞。

藤倉大 / Dai Fujikura

大阪府生まれ。15歳で単身渡英し J.ベンジャミンらに師事。これまでに数々の作曲賞を受賞、国際的な委嘱を手掛ける。オペラの国際評価も高く、2015年にシャンゼリゼ劇場、ローザンヌ歌劇場、リール歌劇場の共同委嘱による《ソラリス》を世界初演。20年に自身3作目のオペラ《アルマゲドンの夢》が新国立劇場で世界初演された。17年から東京芸術劇場で開催の「ボンクリ・フェス」アーティストック・ディレクターを務める。23年に4度目となる尾高賞を受賞。近年の活動はリモート演奏のための作品発表や、テレビ番組の作曲依頼等多岐に渡る。録音はソニー・ミュージックジャパンインターナショナルや Minabel Records から、楽譜はリコルディ・ベルリンから出版。 <https://www.daifujikura.com>

アンサンブル・ノマド / ENSEMBLE NOMAD

1997年、ギタリスト佐藤紀雄の呼びかけによって結成。「NOMAD（遊牧、漂流）」の名にふさわしく時代やジャンルを超えた幅広いレパートリーを自在に採り上げ、斬新なアイデアやテーマによるプログラムによって独自の世界を表現するアンサンブルとして内外から注目されている。サントリー音楽財団「第2回佐治敬三賞」、及び「第3回ウィーン・フィル&サントリー音楽復興祈念賞」を受賞。2000年オランダの「ガウデアムス音楽週間」を皮切りに世界各地の現代音楽祭に招かれている。これまで近藤譲や藤倉大、E.バスケスの作品集やオリジナル・アルバムなど20枚のCDをリリース。